



## 学習評価で大切にしたいこと

**学びが深まった姿で目標を捉え、評価対象とする**  
「何を評価すればよいのか」と難しく考えず、問題発見・問題解決している児童の学びの過程を具体的にイメージし、目標に到達した姿を捉えてから、評価を行きましょう。

**表面に出にくい資質・能力は多面的に見取る**  
テストで評価しにくい「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」は、具体物の操作や言語活動の行動観察、図や式表現のノート分析等、複数の評価方法から見取りましょう。

## 評価の観点及びその趣旨

児童が目標を達成したかどうかを判断するためには、学習状況を観点ごとに評価することが大切です。そのため、算数科の教科目標をもとに作成された「評価の観点及びその趣旨」で方向性を確認し、判断のよりどころを表現した評価規準を作成し、実際に観点別学習状況の評価を行っていくことが必要です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解している。</li> <li>日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けている。</li> </ul>	日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を身に付けている。	数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き粘り強く考えたり、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとしたり、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとしたりしている。

## 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を作成する際、下記のⅠ、Ⅱの視点を踏まえ、学習指導要領の内容をもとに作成します。

- Ⅰ 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることにに向けた粘り強い取組を行おうとする側面
- Ⅱ Ⅰの粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

### Point

単元の評価規準の作成に当たっては、学習指導要領の内容を基に作成した「内容のまとめりごとの評価規準」やそれを更に具体化した「具体的な内容のまとめりごとの評価規準」を参考にすることができます。

第3学年「A 数と計算」(4)「除法」

単元の評価規準

- ① 除法が用いられる場面の数量を、具体物や図などを用いて考えようとしている。
- ② 除法の場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。

## 3観点を評価する上での留意点

### 知識・技能

授業中の問題発見や解決の過程において「知識」は繰り返し使う中で、定着し理解が深まります。また、「技能」も繰り返し使うことで習熟し、生きて働く確かなものとなっていきます。これらのことから、単元の後半に評価の機会を設定することが考えられます。

### 思考・判断・表現

授業中の問題発見や解決の過程において児童が発揮するので、授業中の発言や話し合いでの活動の様子と、自力解決時の問題解決の様子、適用問題の解決の様子、学習感想等の記述内容を見取ることが考えられます。

### 主体的に学習に取り組む態度

既習事項を活用したり、話し合いで他者の意見を参考にしたり、振り返ってよりよい表現や方法を考えたり、日常生活の場面において活用しようとしたりする姿等、自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を捉え、評価していくことが大切です。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 3観点をバランスよく適切に評価する

「指導と評価の計画」を作成するに当たっては、単元目標を分析し、各時間のねらいにふさわしい1～2観点を評価項目を精選し、単元を通して3観点をバランスよく評価します。

2 「思考・判断・表現」の評価場面

「思考・判断・表現」の評価については、単元末だけでなく、単元の評価規準の①や②の評価内容ごとに、問題発見や解決の過程を行う時間に「記録に残す評価」を行うことが考えられます。

(例) 第3学年「A 数と計算」(4)「除法」の授業

◇ 単元名 あまりのあるわり算

◇ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ②除数と商がともに1位数である除法の計算が確実ができる。 ③割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。	①除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えている。 ②余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。	①除法が用いられる場面の数量を、具体物や図などを用いて考えようとしている。 ②除法の場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。(「わり算探し」など)

◇ 指導と評価の計画 (全10時間)

時	主な学習活動	重点	記録	1	2	評価規準・評価方法
1	・余りのある場合でも除法を用いてよいことや答えの見付け方を具体物や図などを用いて考える。	思 主				[思・判・表①] (行動観察、ノート分析) ・除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えている。  [主①] (行動観察、ノート分析) ・除法が用いられる場面の数量を、具体物や図などを用いて考えようとしている。
2	・余りのある場合の除法の式の表し方や、余りなどの用語の意味を知る。	知				[知・技①] (ノート分析) ・包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。
3	・余りと除法の関係を調べる。	知				[知・技③] (ノート分析) ・割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。
4	・等分除の場面についても余りのある場合の除法が適用できるかを考える。	思	○	本時		[思・判・表①] (行動観察、ノート分析) ・除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えている。

指導に生かす評価

第1時では、余りのある場合でも除法を用いてよいことを見出しているかどうかを見取ります。主に「努力を要する」児童を把握し、支援を行います。

記録に残す評価

第4時では、等分除の場面についても余りのある場合の除法が適用できることを見出しているかどうかを把握して、記録に残します。

\* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時におけるおおむね満足できる状況(B)の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 [思・判・表①]

ブロックを操作しながら、等分除の場面についても、余りのある場合の除法が適用できるかについて考え、包含除と同じように余りのある場合の除法を用いてよいことを説明している。

Point

具体的な児童の姿の設定

本時目標に向けて、どのように思考が深まるか、どのように表現が洗練されるか等を、具体物の操作や図による表現、言語活動等に合わせて設定します。

評価方法の例

- ・授業中の発言や話し合いでの活動の様子
- ・自力解決時の問題解決の様子、適用問題の解決の様子、学習感想



## 学習評価で大切にしたいこと

### 数学的活動を通して資質・能力を育成

数学的活動には、現実的な事象と数学の事象を対象とした問題解決の活動があります。これらは学習評価においても重要です。生徒が外の世界と数学を結び付け、数学を生かして事象を捉え、数や図形の性質等を見だし発展しているか等を見取ります。

### 数学的に考える資質・能力を明確にし、評価

数学的に考える資質・能力を評価するには、数学を用いてどのように着目できるようになるか、式、図、表、グラフ等を用いて数学的な表現ができるようになるか等、指導事項を基に生徒の姿で明確にすることが大切です。

## 評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るために、「評価の観点及びその趣旨」は数学科の目標を基に、語尾を「～している」と変えることで捉えることができるようになってきています。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。なお、数学科においては「内容のまとめり」をそのまま「単元」と捉えることが可能です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。</li> <li>事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</li> </ul>	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。

## 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

数学科における「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、以下のⅠ～Ⅳを全て含め「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の指導事項も参考に作成します。

- Ⅰ 粘り強さ (例：粘り強く考え)
- Ⅱ 数学を学ぶ意義 (例：数学を生活や学習に生かそうと)
- Ⅲ 自らの学習の調整 (例：問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする)
- Ⅳ 内容のまとめりに対する学習の対象 (例：正の数と負の数、一次関数、二次方程式 等)

### Point

自らの学習を調整しようとする側面は、下記の②③を踏まえます。

第2学年「C 関数(1) 一次関数」

単元の  
評価規準例

- ①一次関数の(Ⅳ)意味を粘り強く考え(Ⅰ)ようとしている。
- ②一次関数について(Ⅳ)学んだことを生活や学習に生かそうと(Ⅱ)している。
- ③一次関数を活用した(Ⅳ)問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとして(Ⅲ)している。

## 3観点を評価する上での留意点

### 知識・技能

基礎的な概念の理解や原理・法則を理解しているかについても評価の対象となります。知識の暗記や機械的な計算の技能を身に付けているかを評価するだけでなく、例えば、計算の場合、手続きの基になっているものがあることを理解しているか等も見取る必要があります。

### 思考・判断・表現

「評価の観点及びその趣旨」で示されている三つの力(論理的に考察する力、統合・発展的に考察する力等)を評価します。評価では、現実的な事象を理想化・単純化して数学的に捉える場面や、数学的な表現を用いて説明し伝え合う場面等、数学的活動の過程と関連付けた評価場面の設定が必要です。

### 主体的に学習に取り組む態度

自らの学習を調整しようとする側面を見取るには、生徒が問題解決の過程や学んだことの意義を振り返ることが必要です。評価場面では、新たに得た数学の考え方を今後の学習や生活にどのように生かせそうか等、振り返る視点を教師が示すことも考えられます。

## 単元・本時における学習評価の進め方

### 単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

#### 1 現実的な事象と数学の事象をつなぐ力を育成

記録に残す評価の段階で、生徒が現実的な事象の問題解決に既習の数学を活用している具体的な姿を想定します。その姿の実現に向けて、段階的に育成します。

#### 2 数学的活動を見据えて評価場面を設定

数学的活動の充実を図るには、その際に用いる知識及び技能の定着が必要です。単元の節目で定着状況を把握する時間を設け、その上で、思考・判断・表現の評価場面を位置付けます。

(例) 第2学年「C 関数(1) 一次関数」の授業

◇ 単元名 一次関数

◇ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①一次関数について理解している。 ②事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知っている。 ③二元一次方程式を関数を表す式とみることができる。 ④変化の割合やグラフの傾きの意味を理解している。 ⑤一次関数の式を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。	①一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ②一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し、表現することができる。	①一次関数の意味を粘り強く考えようとしている。 ②一次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③一次関数を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全17時間)

時	主な学習活動	重点	記録	2 評価規準・評価方法	指導に生かす評価
11	・一次関数の特徴に関する練習問題に取り組む。 ・学習してきたことがどの程度身に付いているかを自己評価し、学習を振り返って分かったことや今後の学習に向けた考えを記述する。	知 主	○ ○	[知・技①～⑤] (小テスト) ・知識・技能①～⑤の内容を身に付けている。  [主②③] (振り返りの記述) ・これまでの学習を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	机間指導を行い、表、式、グラフを用いて表現できていない生徒を見取り、着目する例を個別に示す等の支援をします。
12	・長方形の辺上の点が動いたとき、頂点と動点を結んでできる三角形の面積について考察する。	思		[思・判・表①] (行動観察) ・数学的な事象から二つの数量を取り出し、その関係を表、式、グラフを用いて表現できる。	記録に残す評価 問題解決するための方法・手順を説明できているか、ノートの記述を基に評価します。
15	・ダム貯水量を基に、水量の変化を理想化・単純化して一次関数とみなし、未知の値を予測する。その際、どのような方法・手順で値を調べたか説明する。	思	○	[思・判・表①] (ノート) ・現実的な事象から二つの数量を取り出し、その関係を表、式、グラフを用いて表現し、問題解決するための方法・手順を説明することができる。	

\* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

### 本時における「おおむね満足できる」状況(B)の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例 [思・判・表①]

貯水量の変化の様子から関数関係を捉え、「グラフの～を見ると…」 「一次関数は～だから式は…」のように、着目した関数の特徴を具体的に挙げながら、値を調べるための方法・手順を説明することができる。

#### Point

#### 具体的な生徒の姿を設定するために

数学的活動では、生徒主体で問題解決に取り組むこととなります。評価規準を基に、生徒が目標に到達した姿を具体化しましょう。その姿を実現するためには、生徒が既習の内容やこれまでに取り組んだ問題解決の過程を想起し、参考にできるよう、構造化した板書や、板書に対応したノート指導等を日頃から行うことが大切です。